

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	生き生きと支え合って暮らせる地域づくりの推進
------	------------------------

現状と課題

伊達市ニーズ調査では、外出頻度について「ほとんど外出しない」、「週1回」と回答した高齢者が約20%だった。さらに、趣味のグループやボランティア等へ参加していない高齢者は約30～40%いる状況となっている。高齢者が元気で生き生きと暮らすためには、その知識や経験、能力を発揮できる機会を確保し、生きがいや充実感を高めることが大切となる。

少子高齢化が進む中で、介護保険サービス等の公的サービスに加え、住民同士の支え合い・助け合いといった「互助」が重要となることから、地域との話し合いの場を設けながら取り組みを進める必要がある。

第7期における具体的な取組

- ・日常生活の支援体制整備

目標（事業内容、指標等）

○生活支援体制整備事業

（事業内容）

- ・生活支援体制整備協議体
- ・生活支援コーディネーターの活動支援
- ・支え愛★地域づくり座談会
- ・生活支援サービスの創出

（指標）

- ・支え愛★地域づくり座談会

項目	2018年度	2019年度	2020年度
開催地区数	6	8	10
座談会開催数	24	26	28

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・支え愛★地域づくり座談会の開催地区数及び座談会開催数を計上

取組と目標に対する自己評価シート

年度	平成 30(2018)年度
----	---------------

実績評価

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・生活支援体制整備協議体 1 回実施・支え愛★地域づくり座談会 4 地区で開催し、座談会開催数は 2 2 回開催
自己評価結果
<p>・各地区での座談会開催などの活動を進めた結果、地区ごとの課題やニーズの具体化とその対応方法の方向性についての検討が進んだ。</p>
課題と対応策
<p>地域課題に対応する必要な支援（例：「生活手助け・安否確認」）を具体的にどう実施していくか、担い手をどうやって確保していくのかが今後の課題。</p> <p>今後、生活支援コーディネーターを中心に、地域との話し合いと並行して、担い手も含めた地域資源の発掘にも取り組んでいく。</p>